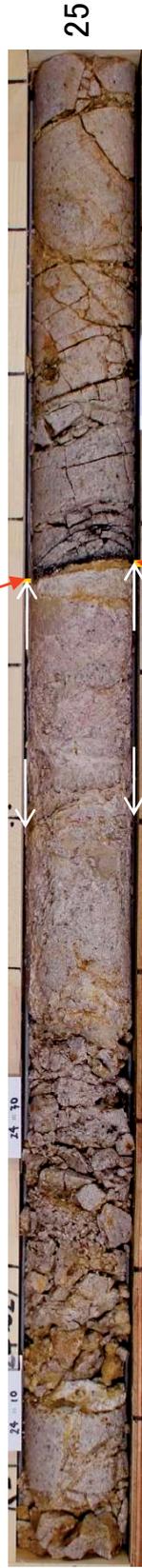


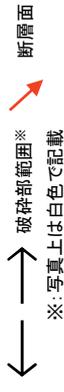
・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

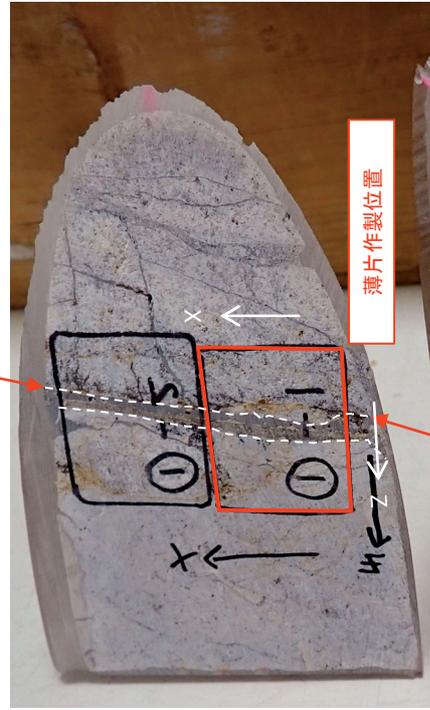
※断層面  $\alpha$  は最新活動面



凡例



薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上強斜を正とする)

薄片全景写真(単ニコル)

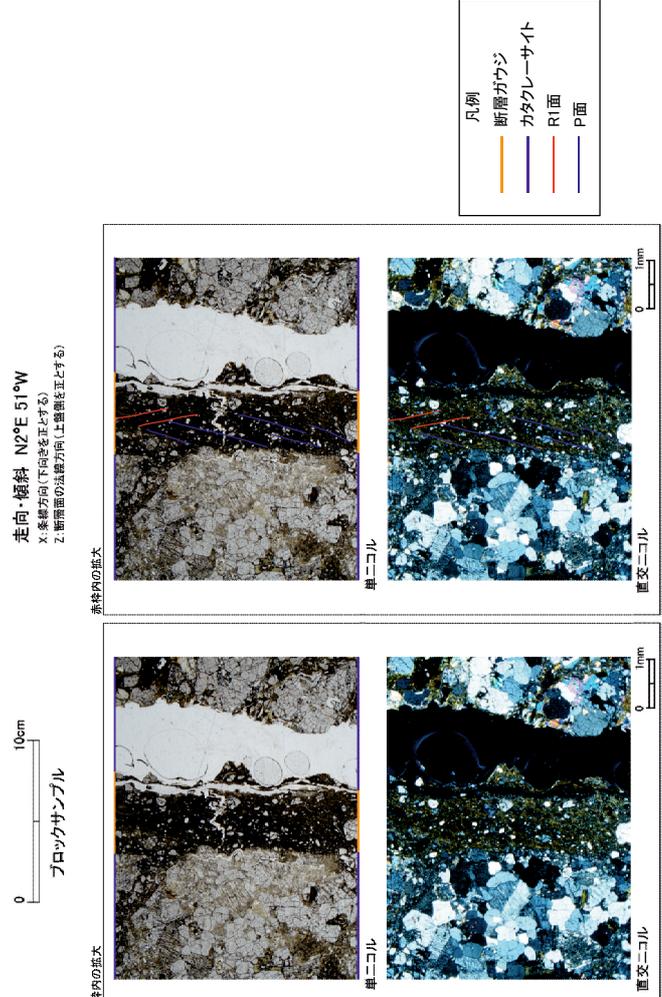
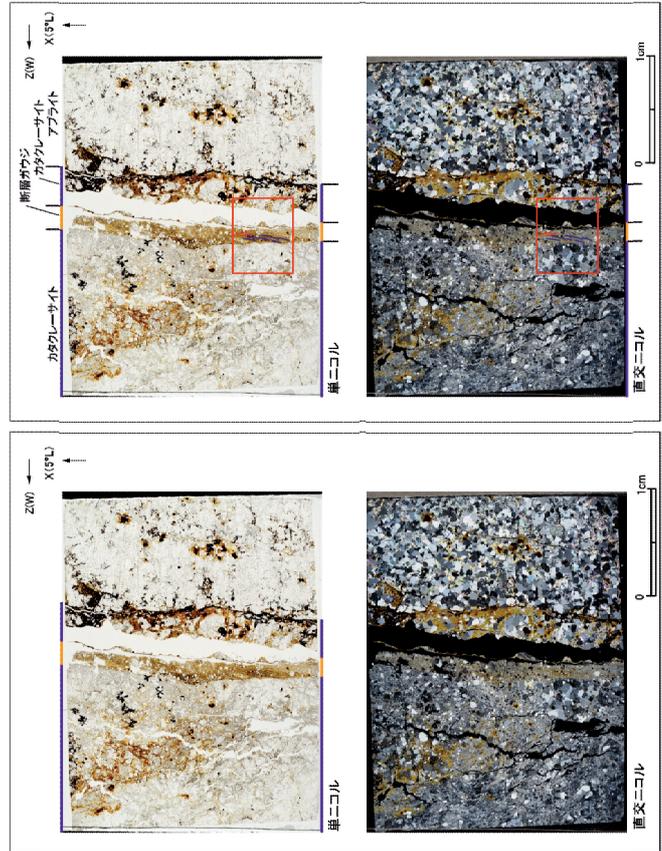
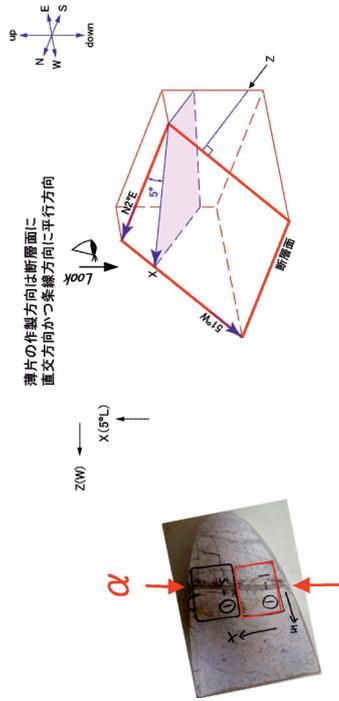
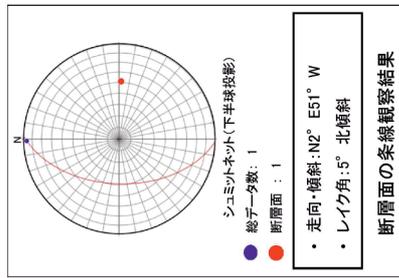


X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上強斜を正とする)

凡例



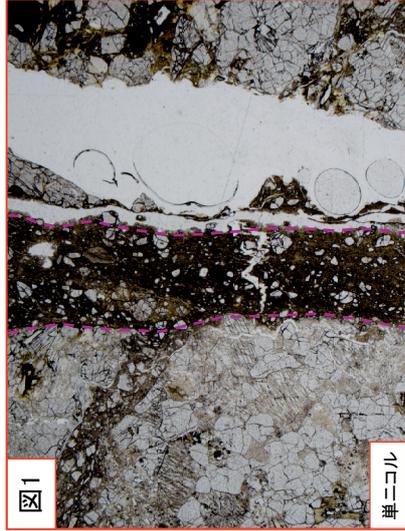
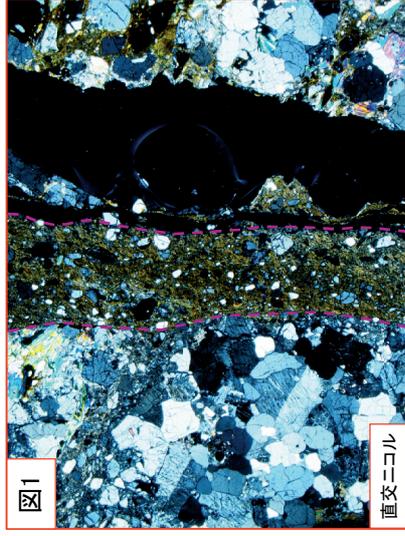
- ・H31-R-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。



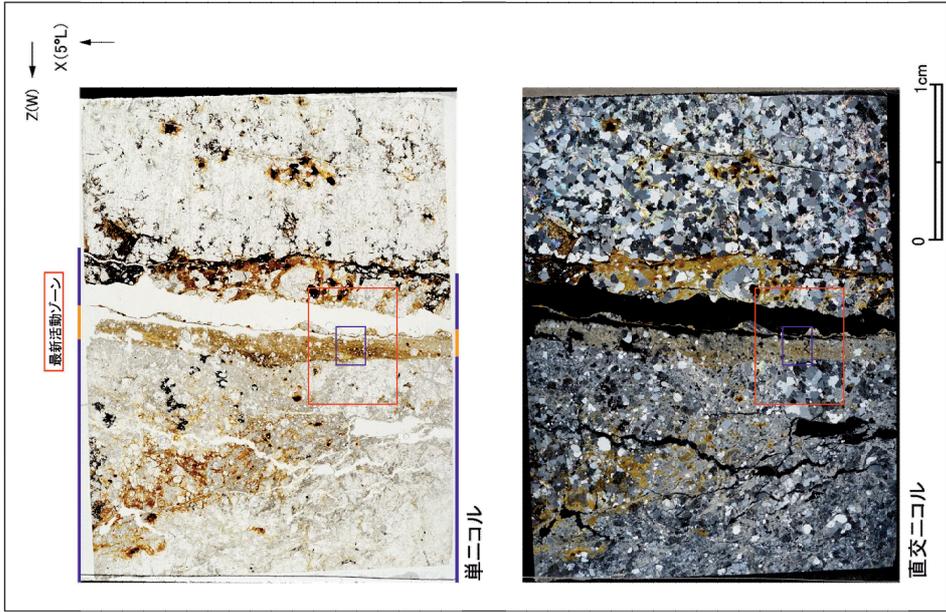
| 凡例 |          |
|----|----------|
| —  | 断層ガウジ    |
| —  | カタクレーサイト |
| —  | R1面      |
| —  | P面       |

第7.4.4.367図 (3) 破碎部性状 H31-R-1 深度24.50~24.67m (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/2))

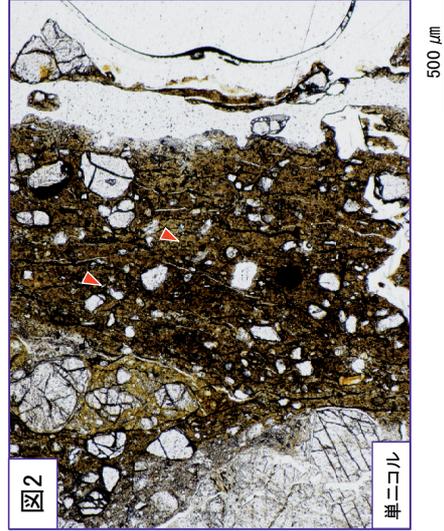
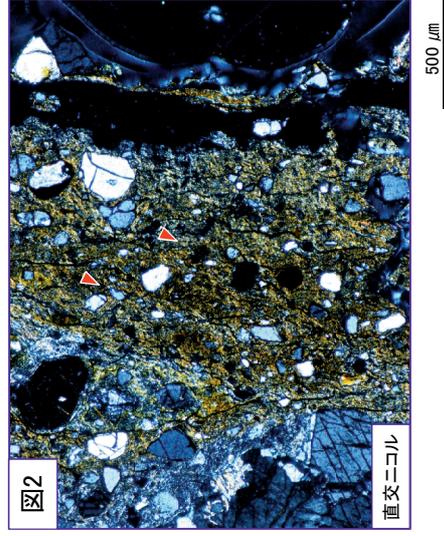
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



凡例  
断層ガウジ  
カタクレーサイト



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

(肉眼観察結果 深度24.67m)

- 深度24.67mの「明黄色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面  $\alpha$  に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
  - 角ばった岩片が多い。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサーサイトの特徴は、カタクレーサーサイトに断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「明褐色粘土状」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

| 断層ガウジ・断層角礫の有無 | 断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]<br>* | 明瞭なせん断構造・変形構造<br>* |
|---------------|-----------------------|--------------------|
| 有             | 0.6                   | 無                  |

\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合には「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

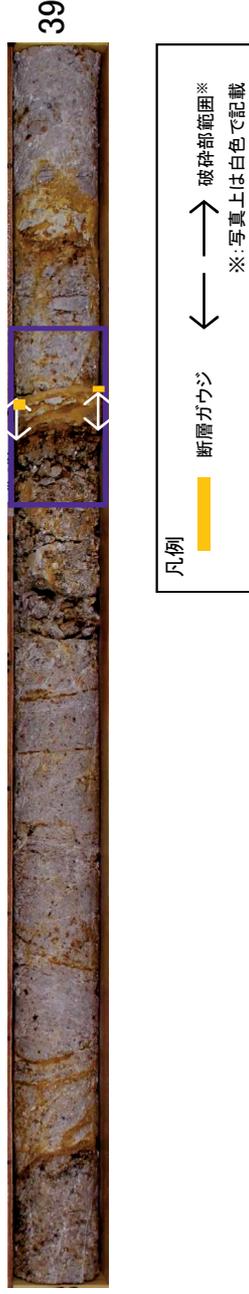
・深度38.69～38.72mの「砂質粘土状」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、細粒部の連続性・直線性に乏しい。これらのことから、変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度38.72mの「淡黄褐色粘土」と記載の箇所については、軟質で、粘土の連続性・直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●38.69～38.72m：破碎部  
砂質粘土状部(Hc-2)。上端10°で波打つ、下端10°で直線的な幅6mmの淡黄褐色粘土を挟む。軟質。全体に淡黄褐色を呈する。幅29mm。

コア写真



細粒部の連続性・直線性に乏しい

細粒部の連続性・直線性が良い



青枠部拡大

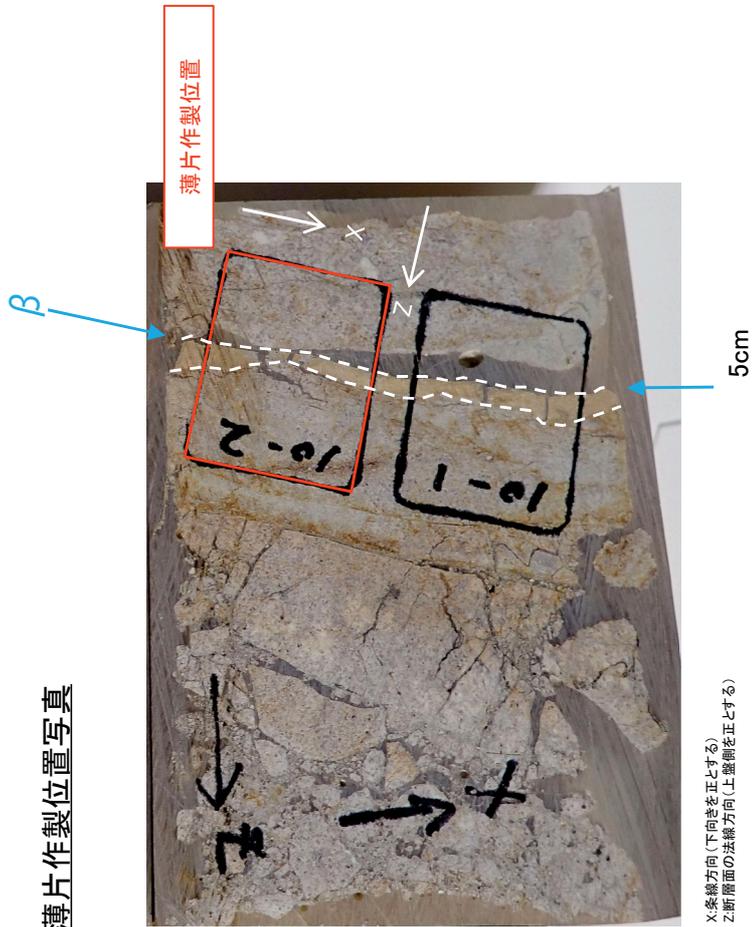
・薄片は断層面β及びび細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面βは最新活動面



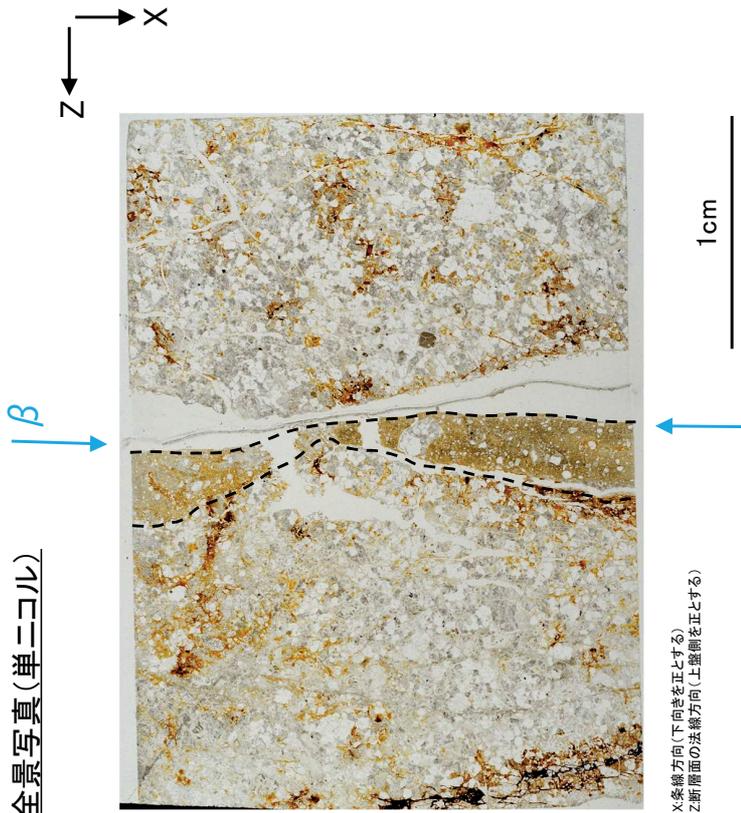
薄片作製位置写真



X: 糸線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



薄片全景写真(単ニコル)



X: 糸線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)